KUMAMOTO
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.573 2020
YMCA NEWS 8

2020年8月1日発行
（毎月1日発行）
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所／（公財）熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区新町1-3-8
Tel 096-353-6397㈹

パラリンピックで社会を変える

パラ競泳アスリート／YMCA水泳教室元メンバー
富田 宇宙（とみた うちゅう） さん

大きな苦痛だった病気の進行

約20年前、ながみねファミリーセンターのプールに通っていた小学生が今、パラアスリートとして世界の舞台に立っています。富田宇宙さん、31歳。2019年にロンドンで開催された世界パラ水泳選手権では100ｍバタフライと400ｍ自由形でともに銀メダルを獲得しました。富田さんは3歳で水泳を始め、高校2年生の頃、徐々に視力が失われる網膜色素変性症の診断を受けました。現在の富田さんの視力は、明るい・暗いが分かる程度。パラ水泳では全盲クラスのスイマーです。

病気が判明した時、富田さんはどう受け止めたのでしょうか。「症状はゆっくり進行して、徐々に視野が失われていきます。5〜10年後には完全に見えなくなるかもしれないし、そうじゃないかもしれない、という曖昧な診断でした。それまで行くことができていたところに行けなくなったり、趣味を失ったり、できないことが少しずつ増えていくと大きな精神的苦痛に襲われました。あらゆるこだわりを捨てなければならなかったので。でも、目が見えなくなるというのは、視覚的な情報が入ってこなくなるというだけで、命を脅かされるわけではない。制限の中でどう生きるか。今は、すべては自分の受け取り方次第だと考えています」。

ありのままを「受け入れる」

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、富田さんの練習と生活の拠点だった東京の施設が閉鎖。そのため熊本市へ帰郷し、6月までYMCAみなみセンターでトレーニングを行うことに。この世界的な異常事態に対しても口調は穏やかです。「僕らは、『当たり前の生活』の定義が皆さんと根本的に違います。新型コロナの影響で『〇〇ができない』『〇〇に行けない』というけれど、僕たちはもとから行動に制限があるので普段から不自由なんです。しかも、その不自由は無期限。自粛はつらいことですが、この状況をまず受け入れることが求められていると思います」。

メダル獲得を目指す2020年東京パラリンピックは延期。来年の開催さえ危ぶむ声が聞かれます。「パラリンピックは視覚を失うことで僕にたまたま訪れた機会です。延期されれば、その期間を最大限に活かして取り組むしかない。仮に大会が行われなかったとしても、何にもないゼロの状況からたまたま機会に恵まれて、それがまたゼロに戻るだけなので恐れることはありません」と富田さん。パラ水泳への挑戦も「今できるベターな仕事として取り組んでいるのだから、それを揺さぶられたとしても受け入れることができると思います」と語り、“物事を受容する姿勢”は一貫しています。

中学時代の水泳部の先輩でYMCA職員の兼瀬さんがトレーニングをサポート

最大の目的は「伝えること」

富田さんはSNSによる情報発信を積極的に行っています。それは、社会にマイノリティ（社会的少数者）への理解を求めるための活動です。「パラリンピックは、シンプルにスポーツというより、マイノリティ理解への働きかけという役割が大きい。特に、水泳はいろんな障がいのある人が参加する珍しい競技です。僕もパラ水泳を経験して、多様な人たちがいるということが自然なんだと考えるようになりました。『あの人は目が見えない』と聞いて皆さんが持つイメージと、僕という存在とにギャップがあるように、視覚障がい者であるとか、国籍、性別のイメージでひとくくりにするのは違うんじゃないかと思うんです。いろんな人がいることが自然なことなんだということを伝えていきたいですね」。

富田さんが今、パラ水泳に全力で取り組んでいる最大の目的は「伝える」こと。「2012年ロンドンパラリンピックはプロモーション的にも、経済的にも成功し、多くのファンを生みました。まず学校行事として子どもたちに大会を観に来てもらうんです。（2面に続く）

富田宇宙さんのInstagramより

Pickup

お野菜とれたよ！
黒川保育園

ぼくらもとったよ！
熊本五福幼稚園

つかんでとったよ！
幼児対象
リフレッシュデイキャンプ

子どもがファンになれば次は家族で観に行きますよね。このプロセスの有効性を実証したという点でロンドンパラリンピックの成功は大きかった。子どもたちは選手の魅力を純粋な目でキャッチします。一方で、日本の社会は障がい者を極端に保護の対象として捉えがちで、パラスポーツへの理解が遅れています。パラリンピック東京大会は社会に変化をもたらす最大のチャンスです。これ以上のビッグイベントはないですから」。

夢から逆算した毎日を送る

富田さんが子どもたちに注ぐ視線にも強い思いがあります。「子どもは遠慮がありませんよね。僕が泳ぐと『目が見えない人が自分たちより速く泳ぐ！』と驚くんです。子どもたちにいろんなバリエーションで、想像を超えるものを見せたり多様性にふれさせて衝撃を与える。その瞬間を自分がつくれたらいいですね」。

子どもたちの前で講演する機会も多い富田さんは「自分の可能性を広げきれていない子どもの存在が気になります」と話します。「例えば、子どもが『サッカー選手になりたい！』って言っても、ほとんどの大人は内心『無理だ』と思ってそのままにしますよね。でも、環境さえ整えばチャンスはあるかもしれません。才能なんてどう芽生えるかわからないから最善を尽くしてあげてほしい。そして、それでも芽が出なかった時に、『この子が本当に好きなものって何かな、向いているものは何かな』って一緒に次の目標を考える。そういうプロセスで人生にチャレンジしていくことが大切なんじゃないかと思うんです。夢って、自分の知識の範囲でしか見られませんよね。この子が、大人の自分すら見たことのない世界に行くにはどうしたらいいんだろうと考えたい。いろんな場所に連れていって、いろんな感動、世界にふれさせたい。それが子どもの可能性を広げることにつながるんじゃないでしょうか。

小学生の頃にYMCAのスイミングに通っていて、まさか自分が世界を舞台に泳ぐなんて想像もしていませんでした。目が見えない僕でさえ、世界各地へ行っていろんなことにチャレンジしたり、そこから学んだことを発信したりしています。ということは、子どもたちにはもっと大きな未来が眠っているはずです。『すべての子どもに無限の可能性がある』ということをしっかり念頭において応援していかなければと思っています。そして、大きな夢から逆算して、いつか望む場所に行けるように毎日を送ることが、夢を実現する唯一の方法だということを伝えていきたいです。

非日常体験が広い世界につながる

社会の変容への働きかけと子どもの未来をみつめる考え方は、自身の経験にも関係があると富田さんは語っています。「子どもの頃、YMCAのキャンプをはじめ、様々な野外活動を体験する機会に恵まれました。当時の仲間には海外で研究している人や、無医村の医者として活躍している人もいます。子どもの頃の非日常体験が刺激となって、もっと面白い世界を見てみたい、広い世界で活躍したい、と彼らを突き動かしているんじゃないかと思うんです。野外活動が、発達障がいの子どもも含め、子どもの心身の発育によい影響を及ぼすという科学的エビデンスがたくさんあります。そのような取り組みを社会システムとして継続していく場がYMCAでもありますね」。

大学院での研究、取材、講演など、競技以外でも忙しい毎日を過ごす富田さん。「でも、アスリートとして実績を残さなければ基盤がくずれちゃいますから。誰よりもしっかりやって結果を出してこそ、理想が語れるんです」と、今日もハードなトレーニングをこなし、パラ水泳に挑んでいます。

富田宇宙さん
公式SNS

◀Twitter
@UchuTomita

Instagram
@uchu_tomita▶

R｜E｜P｜O｜R｜T

［ 7月6日⇒ 7月23日 ］

幼児園 みんなの願いをこめて　七夕飾り

新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していた「子育て広場わいわい」を7月6日（月）に再開。0歳から3歳の子どもと保護者7組が遊びに来てくれました。消毒など、感染症予防のための措置をとりながらの実施。初めての場所でドキドキしているお友だちもいましたが、歌を歌いながらお名前を呼ぶと、振り向いたり、手を挙げたりしてくれました。

翌日が七夕ということで、手で持つことができる、一人用の笹を準備。織姫様と彦星様を作ったり、短冊に願い事を書くなどして飾りました。最後はでき上がった笹を持ってみんなで記念撮影！完成した七夕飾りを見つめるあまり、笹でお顔が隠れてしまいましたが、みんな笑顔で持ち帰ってくれました。みんなの願いが叶ったのか、朝からの雨は帰る頃にはやんでいました。

一緒に歌って覚えた「たなばたさま」の歌詞。“砂子（すなご）”のような星空に思いを馳せ、子どもたちの成長を願う一日になりました。外出も心配な日々ですが、親子で安全に過ごすことができる機会と場所をYMCAで提供できたことは大きな一歩でした。8月以降も、テーマを変えながら実施します。

職員　西本愛

講　習 いのちを守る　ウォーターセーフティー講習会

熊本YMCAでは、毎年、ウォーターセーフティー（水上安全）講習会を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の水泳の授業が中止になることが多い中、県内の幼稚園・保育園や小学校に出向き、講習会を実施。子どもたちが洋服を着たまま水に入る着衣泳等を体験しました。菊池市の泗水西小学校や、益城町立津森小学校など、昨年も実施した学校の児童たちは、浮き身のとり方が体にしっかり刻まれている様子でした。また、7月23日（木・祝）には、今年4月から熊本YMCAが指定管理者の代表として運営するユーパレス弁天でも初めての講習会を行いました。誤って水中に落ちてしまった場合にペットボトルやランドセル、着衣などを活用して助けを待つ方法やペットボトルを使った救助方法を紹介。午前と午後の部合わせて約60名が体験しました。参加者からは「普段のプール利用ではできないことを体験できた。これを機会に水の事故には気をつけたい」などの感想が聞かれました。

これらの活動を通して、子どもたちが事故のない楽しい水遊びを楽しむこと、いのちが守り育てられることを願っています。

職員　兼瀬稔宜

Information　行こう　見よう　深めよう

8月18日~9月19日 ※

YMCA学院　オープンキャンパス

学び×体験

2021年度から新校舎に移転するYMCA学院。建築科・ホテル観光科・医療秘書科・健康スポーツ科・こども保育科の各学科の魅力にふれることができるオープンキャンパスを開催します。

日・内 8月18日（火）9:30～12:00〈友だちと一緒に〉・24日（月）18:00～19:00〈高校1・2年生対象〉・29日（土）9:30～12:00〈友だちと一緒に〉／ 9月5日（土）・19日（土）9:30～12:00〈模擬面接〉
場 YMCA学院中央校舎（熊本市中央区新町1-3-8）　費 無料
問 YMCA学院 Tel 096-353-6393

お申込みはWebで

オープンキャンパスの様子

8月20日 Thursday ※

子育て広場わいわい 幼稚園で遊んでみよう！

遊び×わくわく

YMCA水前寺幼稚園の保育を体験できる、子育て広場わいわい夏季親子登園「幼稚園で遊んでみよう！」を開催します。

日 8月20日（木）受付時間9:15～9:25 終了時間11:00（予定）
場 YMCA水前寺幼稚園（熊本市中央区出水3-12-1）　内 ①運動あそび ②知育あそび ③製作あそび　定 20組
対 9月中に2歳になる方～未就園児
問 YMCA水前寺幼稚園
Tel 096-362-4141

お申込みはWebで

9月6日~10月18日 ※

毎月異なるテーマで楽しむ リフレッシュデイキャンプ

キャンプ×リフレッシュ

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い長期にわたる外出自粛を経験した子どもたちに、のびのびと活動できる機会を提供することを目的に、リフレッシュデイキャンプを開催しています。10月まで、対象を小学生と幼児に分けてそれぞれ月1回、テーマを変えながら活動します。リーダーやお友だちと楽しい時間を過ごしてみませんか？

日 年中～年長対象 9月12日（土）・10月10日（土）／小学生対象 9月6日（日）・10月18日（日）　場・内 月ごとに異なります　費 3,850円～9,900円（内容によって異なります）
問 ながみねファミリーセンター Tel 096-385-0676　担当 伊藤

7月はいかだ作りに挑戦

7月の小学生対象キャンプのテーマは「いかだを作ろう～協力して対岸へ到達せよ！～」。ペットボトルなどの素材を駆使して、グループごとにいかだを作り、ながみねファミリーセンターのプールに浮かべて“乗船”しました。

うまく浮かぶグループや乗った瞬間にバラバラと崩れるグループなど結果は様々。上手に乗れなかったグループからも「今度は絶対成功させる」など前向きな言葉が多く聞かれました。

※各行事は新型コロナウイルス感染拡大状況によって、内容を変更、または中止する可能性があります。

日 日時　場 会場　内 内容　費 参加費　定 定員　条 参加条件　持 持ち物　対 対象　催 主催　締 締切　申 申込　問 問合せ　他 その他

岡総主事のタラントン Vol.71

talanton

寄り添う者として

コロナ禍に日本・九州を襲った「2020年7月豪雨」は甚大な被害をもたらし、尊い命が奪われる出来事となりました。自然の営みに私たちの無力さを思い知らされます。今も悲しみ、苦しみ、困難な状況におられる方々に心からお見舞い申し上げます。

温暖化の影響と考えられる気候変動で激化し、「想定外」、「観測史上初」などと表現される豪雨に対して私たちはどうあるべきでしょうか。台風シーズンはこれからです。避難する過程や避難所での過ごし方など、これまで以上に「新しい生活様式」へと改めることが必要なのは言うまでもありません。様々な情報の中、決断を迫られる場面では私たちの想像力が試されます。安全を担保する努力も必要ながら、想像を上まわる災害が起きていることも認識しておかなければなりません。

熊本YMCAでは豪雨災害を受け、YMCA西日本地区エリアセフティーの活動として先遣隊を被災地へ派遣しました。KVOAD（くまもと災害ボランティア団体ネットワーク）、熊本県社協と事前に打合せを行い、人吉、八代の各市の避難所や災害ボランティアセンターを巡り、被災状況を視察。避難所ではコロナ禍において、マスク着用はもとより、3密の回避を徹底しながら、運営がされていました。

被災した地域では道や橋が壊れ、支援が行き届かない所もあります。YMCAではそのようなところにフォーカスしながら活動を行っていきたいと考えています。復旧の道のりが長期化する中、被災された方々の心労も計り知れません。今後、細かなニーズの調査、アセスメント、専門職の協力を得て行う心のケアプログラム等がさらに必要になります。様々な立場で懸命に踏ん張っておられる方々のことを想い、私たちYMCAは地域と共に生きる者として、誰一人取り残さない支援活動を行っていきます。

ポジティブネットYMCA募金

2020年7月熊本豪雨

このたびの豪雨に際し、被害を受けられました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

九州を中心に甚大な被害をもたらした豪雨は、熊本県内を含め九州で70名以上の犠牲者を出しました。

新型コロナウイルスの影響でボランティアは県内在住者に限られ、感染防止と人手不足の二重の課題と長く続いた雨により、復旧活動は思うように進んでいません。熊本地震からの復興途上にある熊本は、再び大きな試練に直面しています。

熊本YMCAは、関係機関との情報共有と連携により、被災地へのボランティア派遣とともに、コミュニティの復興を目指し、人々や子どもたちに寄り添う活動を展開していきます。皆さまの尊いご支援をお願い申し上げます。

1 応急対策

避難所運営のための後方支援
支援物資の調達と運搬

2 災害ボランティアの派遣とコーディネート

ボランティアの派遣
支援者のためのケアプログラム

3 子ども・若者の支援

子どもたちの心のケアプログラム
被災高校生へのスカラシップ

YMCA尾ヶ石保育園では豪雨被害にあった子どもたちに元気を届けようと、応援フラッグを作成。園児たちのカラフルな手形で絵を描き、「ぼくのえがおをとどけるよ」「みんながげんきにすごせますように」などのメッセージを添えました。

フラッグは八代市の保育園などに届けられました。

■募金方法

- YMCA各センターへの持参
- お振込み（肥後銀行・みずほ銀行）
- クレジットカード
- Yahoo!募金（Tポイントでの募金が可能）

詳細はWebで▶

新型コロナウイルスの影響を受ける青少年を支援

新型コロナウイルス感染拡大を受け、YMCAは地域の人々に伴走し、多様な取り組みを行っています。

YMCA学院日本語科では、留学生を対象にアンケートを実施。57.1％の学生が「アルバイトが減った」、71.4％が「生活に困っている」と回答したことを受け、「留学生支援緊急募金」に取り組みました。熊本ジェーンズワイズメンズクラブなど多くの団体・個人から寄せられた募金をもとに、留学生一人につき、5kgのお米とギフトカードを贈呈しました。7月17日に行った贈呈式の模様はWebサイトでご覧いただけます。

わたしと聖句

鹿本キリスト教会　原口 泉

コリント信徒への手紙一　13章13節

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

信仰、希望、愛

先日、人吉市の豪雨被災地へ行きました。建物の内も外も、道路も、町全体が泥まみれ、家々の前には家財道具やごみの山、豪雨の凄まじい爪痕を目の当たりにし、言葉を失いました。被災地での生活再建を思うと途方に暮れてしまいます。

身近な場所での大きな災害を前にして、冒頭の聖句が思い浮かびました。この言葉は、信仰、希望、愛という大切な三つの価値を教えています。被災された方々と共に歩む上でもこれらの価値が大切ではないかと思います。

第一に信仰。どんな困難な時にも神は共にいて下さいます。それを信じて被災された方々に必要な力が与えられるように祈り続けたいと思います。

第二に希望。希望がなければ、私たちは厳しい現実に圧倒されてしまいます。困難に向き合うために希望が必要です。困難にも意味があり、神が助けて下さり、いつか平和な日常が戻ってくると信じて、明るい見通しを持ちたいと思います。

第三に愛。被災地を訪れてみて、復興のためにどうしても幅広いサポートが不可欠であることを痛感しました。一人一人にできることは小さなことでしょう。でも小さな力が集まって復興が進んでいきます。神から与えられている体力、時間、お金を、このような時にこそ少しでも分かち合いたいと思います。

発行所／（公財）熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397㈹
発行人／岡 成也　編集人／日野 充裕
定価60円 購読料は会費に含む
www.kumamoto-ymca.or.jp
▲Facebook

熊本YMCAの使命　共に生きる社会　生涯学習の推進　ボランティア活動　地球環境の保全　ウエルネス活動　平和な世界

2020年度基本聖句　テサロニケの信徒への手紙一　5章13節
愛をもって心から尊敬し　互いに平和に過ごしなさい。